

男よ！高邁な精神を

私は自分が言いたいことを補うためによく「引用」をする。もしも考えが同じで自分もこう書くだろうと思う文章に出会ったらわざわざ書くまでもない。そっくり拝借して転載すればいいではないか。今回は雑誌「致知」の藤尾秀昭と武心教育経営塾の近藤建の二氏の文を拝借した。

視座を高くして人生を変える

五月号「致知」の特集「視座を高める」の総リードに主筆の藤尾秀昭氏がこう書いている。

☆☆☆☆

課長の宮崎（仮名）はある日、専務に呼ばれて、「地方営業所の立て直しをやってくれ」と指示された。その営業所は立て続けに五人も所長が替わっていた。そのうち三人は、そのまま会社を去っている。「あの人が、あそこに行くの？左遷だね」と社内の人々がそう言った。宮崎自身もそう思った。

帰宅して妻に話した。「どうしてあなたがあんな所へ」と泣き騒ぐかと思ったら、ニコニコ笑って、「難しい営業所らしいけど、何とかなるわよ。行くのが楽しみ」と言った。「だってあなた、いまの会社が好きなんでしょ。社長さんを尊敬してるんでしょ。」

これは左遷だ、と思い込んだままなら、こういう結果にはならなかったに違いない。妻のひと言を契機に、宮崎は視座を高めることで自暴自棄に陥らず、運命を好転

させたのである——人材育成家・染谷和巳氏が著書に書いている話である。

視座が低いと人は状況や環境に振り回される。視座を高めることで人は打つ手が見え、状況や環境を変えていくことができる。言い換えれば、視座を高められない限り、人は運命を高めることはできない、とも言える。視座を高めることは人生の大事である。

新渡戸稲造は「武士道」の著者として有名だが、三十五歳の時に大病した。治るには八、九年はかかるというのが医師の見立てだった。彼が絶望に打ちひしがれたのは当然だろう。だが、いや、病からも修養の種にすればよい、病からも得るものはある、と見方を変えたら、いま自分は人生の半ばにきてひとと休みしているのだ、という気持ちになった。そう思っただけで一年ほど治り、三十七歳の時に「武士道」を著すまでに元気を回復した、という。病気に對する視座を高めることで新渡戸の運命は大きく変わった。視座の大事さを語って余りある逸話である。

私たちもまた、視座を高めて人生の万変に処していきたい。

☆☆☆☆

経営管理講座 329 染谷和巳

識のこと。意識を高めれば人生が変わる。マイナス思考をプラス思考に変えるには例のようにキツカケが必要だが、ほんのちよっとしたキツカケで人生は変わる。藤尾氏が引用してくれた私の文に出てくる宮崎課長は現在の人物で、これは三十年前、私と同じ会社に勤めていた頃の話である。宮崎も前の会社を辞めて研修会社の営業部長になっていたが、二年前会社消滅の危機に遭遇した。社員は仕事に身が入らなかつた。ここで詳しくは語れないが、その

の危機を宮崎が起死回生の逆転ホームランをかつとばして克服した。社員三十人に生気が甦った。あの若い時に身につけた「冷や飯の食い方」がここでも生きた。「ピンチはチャンス」を信じ、ピンチを「そら来た、待ってたぜ」と歓迎して乗り切る強い精神、高い意識の勝利である。もちろん努力もするが努力の根底にこの「明るい意識」がなければ逆境ははね返せない。現在宮崎はアイウィルのライバルの研修会社の社長になっている。

新潟市で教育研修の武心教育経営塾を開き、また格闘技の道場、拳心館を運営、日本キックボクシング協会の理事を務める近藤建氏は「国士」である。塾生や関係者向けに毎月「武心塾だより」を発行している。普通の新聞の半分ほどの大きさ（タブロイド版）に教えや所感を手書きでびっしり書いている。すべてひとりでそれも手書きで！

今回は32号、33号の巻頭の主張の三分の二を拝借して紹介する。

☆☆☆☆

義と勇気と潔さと武士の情け

新潟市で教育研修の武心教育経営塾を開き、また格闘技の道場、拳心館を運営、日本キックボクシング協会の理事を務める近藤建氏は「国士」である。塾生や関係者向けに毎月「武心塾だより」を発行している。普通の新聞の半分ほどの大きさ（タブロイド版）に教えや所感を手書きでびっしり書いている。すべてひとりでそれも手書きで！

私は夜行列車に乗った後いろいろな事を考えながら寝てしまった。あの娘が優しいだけの男に「アンタラそれでも男」と怒ってる夢を見つ。

☆☆☆☆

たり、レストランでは何か好きなものを選んでくれたり、ともかく気の利く人——そんな男がいいそうだ。私は若い頃から女に気を使う事等一切せず、「俺の後に付いて来い」であり、今の女が求める優しさ落第男であった。父から「ケン坊、男は無駄口利くな。強くなれ。剛毅朴訥仁に近じだ」と教えられて来た。それからずっと、教えられる今でも「男らしさとは何か」を考へ自省しつつ生きていく。

男、漢、大丈夫、もののふ（武人）として生き抜きたい私は「義・勇・潔さ」を重んじ「卑怯・臆病」を恥とし、誇りある人生を目指している。松陰の士規七則の第三項「士の道は義より大なるはなし。義は勇によりて行なはれず、勇は義によりて長ず」を人生の指針として生きている。

今年も新卒社員研修で①「義を見てせざるは（の）後にどんな文が続くか尋ねたが三社五〇人の若者が誰も知らなかつた。五十歳位の人の八〇％は知らない。②「武士の情け」という言葉は知っていても、内容は知らない者が八〇％。

③「情けは人のためならず」は、情けをかけるとその人の為にならないから、情けをかけない方がいい——と解釈している人が多いという。

小学生から英語を学んだ方がいえないのに英語学習なんて不要と数学教授の藤原正彦先生は「国家の品格」（新潮新書）で力説している。とにかく国語が大事、一生懸命本を読ませ、日本の歴史や伝統文化を教えよと言われている。

☆☆☆☆

近藤流武士の情けは、「本人が恥いっているから」「反省している様だから」「可哀想だから」マア今回は「見て見ぬ振りしよう」と「許してやろう」と「大目にみよう」とある。バドミントンの選手の間で法賭博、プロ野球選手の声かけ役問題——いつから日本人の心はこんなに狭くなったのか。NTTはバドミントンの選手だけでなく、監督不行届きでコーチまでクビにした。何とせちがらいい日本になつた事か。

☆☆☆☆

実は今月号のこの欄にバドミントンの桃田選手の記事を書くつもりであった。プロ野球の声掛け役にみんなが五百円、千円を出す慣習は、暴力団がらみの野球賭博とは関係ないことだが、マスコミは一斉に鐘を叩いてこれを「悪事」に仕立て上げた。

庶民は鐘の音に惑わされて「けしからん！」とプロ野球に対する不信感を募らせた。これと同じことを週刊新潮が桃田選手に行った。桃田選手がクラブで酒を飲み酒場の女と遊んでい

る写真は何枚も載せ、「ディーブキスしている」「尻に手を入れて報道した。」

☆☆☆☆

二十歳の男が自分のお金で酒を飲みに行つて女といちゃつくことが悪いことでニュースになるなら、六本木や赤坂のクラブには毎日毎晩悪い奴が何千人もいることになる。

☆☆☆☆

マスコミが作った「民意」が「けしからん！」と叫ぶ。それが政治や裁判まで動かす。武士の情けは死んだ。

☆☆☆☆

近藤建氏が書いてくれたのでこの選挙資金問題での逮捕、大臣答

☆☆☆☆